

No.736 March 2018

ASAHI MACHI

Public Relations

① 広報 あさひまち



2018
3

No.736

旧家に伝わる あでやかな古今雛



1. 施設外観 2. ボルダリングスペースを有するルーム1 3. 明るい和室とルーム2 4. 職員用の事務室

放課後児童クラブ「りんごっこ」新施設が完成



◆放課後児童クラブ「りんごっこ」
朝日町宮宿 2405-1 (宮宿小東隣り)
☎0237-67-2122
(休所) 日・祝日、お盆、年末年始
※ご利用詳細等はお問合せください

施設の老朽化や利用する児童の増加を受けて町が整備を進めてきた「放課後児童クラブ」の新施設が2月26日に完成し、3月10日、一般町民向けの内覧会が行われました。

共働き家庭等で日中家庭での見守りに欠ける児童を対象に、安全な生活の場を提供する「放課後児童クラブ」。新設された施設は木造平屋建てで、延べ床面積は約313㎡。建物内には約98㎡の広さのルーム1(運動スペースと約34㎡のルーム2(学習・視聴覚スペース)のほか、和室と事務室等を配置し、給湯室や砂場、バスケットゴールなどの各種レクリエーション用設備も備えています。

外観は赤・白・黄を基調としたあたたか味のあるデザイン。高い天井と大きな窓から明るい光が降り注ぎ開放感たっぷりの建物になっています。

総事業費は1億4297万円。そのうち約3割は国や県の補助金、約1.5割は前年度寄付されたふるさと納税を活用。利用者向けのオリエンテーションに参加した保護者からは「小学校に近くて安心」「明るくて広い。子どもたちものびのび活動できそう」と期待の声が上がり、子どもたちも「早くここで遊びたい」と嬉しそうに目を輝かせていました。

施設は3月19日より利用が開始され、3月29日に竣工式が行われる予定です。

目次 CONTENTS

- P2 町長歳時記
- P3 Pick Up News
放課後児童クラブ「りんごっこ」新施設が完成
- P4 特集
朝日町 今昔タカラモノガタリ
- P8 町政スポット
・いただいた寄付金をまちづくり事業へ活用しています
・第6次朝日町総合発展計画が策定されました
・小林達院長に「地域医療貢献奨励賞」ほか
- P12 朝日町コミュニティ・スクールが町内小・中学校で始まります
- P14 まちレポ
・朝日サンフラワーズ創立 30 周年記念式典
・朝日町子育て・家庭教育講演会
・牛乳パックで「ペンたて」づくり
・蜜ろうでリップ&ハンドクリームづくり ほか
- P16 住人十色
- P17 それいけ協力隊とウサビ、町立図書館コーナー
- P18 健康あさひるばんざい、朝日町エコミュージアムサテライト散策
- P19 戸籍のまど、となりのリンゴさん、広報誌でふるさとのぬくもりを
- P20 町の地酒「豊龍」蔵を訪ねる

表紙の写真



3月3日～18日まで、「宿のやかた」(前田沢)で行われている「朝日町のひなざり展」にお邪魔しました。今年は民話でまちおこしをしている「星の会」とのコラボレーション。古民家で昔話とおいしい抹茶をいただきながら、町の旧家に伝わる享保雛、古今雛が見られます。ぜひお越しください。

町長歳時記 (139)

あれから7年 ～東日本大震災 七ヶ浜町追悼式に参加して～

3月11日、午後2時46分。あの東日本大震災から7年目を迎えた、宮城県七ヶ浜町の追悼式が、一分間の黙禱から静かに始まりました。寺澤町長の式辞、各来賓の追悼の言葉、遺族代表の言葉、復興の誓いと続いていきました。

遺族の代表者は中学校の先生でありました。震災当時大きな揺れの中、生徒の安全確保に全力を尽くしておられましたが、家族に電話してもなかなか繋がらない状態が続き、矢も楯も堪らず上司の許可を得て、急ぎ我が家に向かったというのです。しかし被災直後の混乱の中、遅々として車も進まず、途中警察の方に戻るように指示され、やむなく近くの奥さんの実家に向かったそうでもあります。そこでも家族の連絡は入らず、翌日から避難所をまわり、ようやく娘さんと会えた喜びもつかの間、父親は足に怪我を負って病院に運ばれ、母親は津波に流され発見されなかったという、当時の切迫した状況が、会場に集まった多くの遺族の方々の涙を誘っていました。

そして、七ヶ浜中2年の女子生徒による復興の誓い。当時小学2年生だった彼女は、父親を津波で亡くしたのですが、よくその意味が分からず、元気に小学校生活を送っていたそうです。しかし、上級学年になり震災が授業で取り上げられた時、父親はもういないんだという現実と当時の状況がよみがえり、辛く耐えられず「もう学校に行きたくない」と思ったそうです。それでも今は「将来困っている人たちの役に立てるようがんばっていくので、どうか天国のお父さん、見守っててください」と立派な誓いの言葉を述べておりました。

震災から7年の月日が経ちました。人の悲しみというものは歳月が癒してくれるものではなく、いつまでも人の心に宿るものなのです。そのような中であっても人々は前向きにがんばって生きようとする、そんな姿に胸の打たれた追悼式でありました。

朝日町長 鈴木浩孝

「生涯教育・学習の町あさひ」宣言

私たちは、美しい自然とあたたかい人情につつまれたこの町で、蜜のあふれるリンゴのように、芳醇な香りのワインのように、豊かに、実りある暮らしをめざして学ぶことを宣言します。

私たちは
生涯 よく学び、道を楽しみ
心豊かに生きることをめざします

私たちは
生涯 腕を磨き、技を練り
誇り高く生きることをめざします

私たちは
生涯 体を鍛え、よく遊び
たくましく生きることをめざします

(平成6年3月17日 朝日町議会議決)



1. 2. 大会に先立って行われた表彰式の様子 3. 町体育協会表彰で受賞者代表あいさつをする村山朝師(あさじ)さん(助ノ巻) 4. 懐かしい8ミリフィルムを解説する町エコミュージアム協会の長岡信悦理事長 5. 女性文化教室「民謡・歌謡教室」の皆さんの発表 6. 上映映像に見入る参加者 7. 子どもの芸術文化活動表彰受賞者 8. 体育協会表彰受賞者 ※各受賞者は当日欠席の方を除く

も変わらない多くのタカラモノがこの町にはあります。その誇りを再確認し、想いを馳せる記念大会となりました。

(※1) 表彰者リストは10、11頁に掲載。
(※2) 茶道、華道、書道、踊り、刺し子、パッチワーク、着付け、料理、大正琴、民謡・歌謡、グラウンドゴルフの全11教室。

特集

第30回 朝日町生涯学習推進大会レポート

心豊かにいきいきと…「生涯教育・学習のまち」

朝日町 今昔タカラモノガタリ

今 年で30回目を数える「朝日町生涯学習推進大会」が2月25日、創遊館ホールを主会場に開催されました。各地区の公民館・文化教室などの様々な団体が、日頃の生涯学習活動の成果を発表・展示する当大会。当日は各団体関係者など約350人が参加し、大いに賑わいました。

大 会に先立ち「町体育協会表彰式(受賞者:24人)」および「町子どもの芸術文化活動表彰式(受賞者:28人)」が行われ、各種スポーツ大会や文化コンクール等で優れた成績を収めた町民へ賞状やメダル、記念品などが贈られました(※1)。続く大会発表では、女性文化教室(※2)の活動紹介のほか、「民謡・歌謡教室」メンバーが自慢の歌声を披露。その後、記念プログラムとして、「朝日町のタカラモノ」をテーマに2本の映像上映がありました。

一つは、懐かしい昭和の朝日町の生活や行事などを記録した8ミリフィルムドキュメンタリー「あの素晴らしい日々をもう一度」。続いて現在の朝日町をドローン(空撮)という新たな視点からとらえた「朝日町空撮紀行」です(詳細ともに次頁で紹介)。大会30年の歴史の中だけでも、人々の暮らしや仕事、町の様子は大きく変わってきました。しかし、今も昔

朝日町空撮紀行

【映像・解説:「山形空旅」主宰 永井 毅 氏】

ドローンを使った空撮映像で山形の自然や風景を記録し、後世に伝えようと活動している「山形空旅」。主宰の永井さんに解説いただきながら、朝日町の美しい原風景(タカラモノ)を堪能しました。



榎平の棚田(能中)



旧三分校(ハツ沼)



木川溪谷(立木)



名勝 大沼の浮島



最上川(玉ノ井)



朝日町は農山村の原風景が数多く残っており、新たな視点を受け入れる柔軟な町民性もある。それは町外から見ても羨ましい気質です。ぜひ大切にしてください。

「山形空旅」主宰 永井 毅 氏(山形市)



▲【写真解説】(左から) 集落での春祭り、当時盛んだった養蚕業・蚕の繭を茹でてほどこしている様子、朝日川を望む風景(常盤新崩から太郎方面の眺望)、囲炉裏端でキセルをふかす男性、秋の稲こきの様子、芋煮会で満腹の子どもたち(朝日川河川敷/水口子ども会)、現在もそのまま続くハツ沼春日神社祭礼の獅子踊り
▶昭和49年10月27日に行われた町誕生20周年を祝うパレード
※これらが撮影された時代は昭和30年代半ば~40年代後半と推測



朝日連峰初の山岳写真家
故・阿部幸作氏(1924~1995) 略歴

昭和24年より町内常盤で写真店を営む。昭和26年、故・安斉徹博士(山形大学教授)の「磐梯朝日国立公園指定のための調査」に同行したことがきっかけで、大朝日岳の美しさ、魅力にとりつかれる。撮影には3台のカメラを持ち、毎年十数回、合計300回以上朝日連峰に通う。

昭和27年、撮影した写真が旧郵政省の磐梯朝日国立公園記念切手シリーズ「朝日岳」「月山」の原画に選出。昭和57年に朝日連峰初の本格的写真集「朝日連峰 四季と植物」(高陽堂書店刊)を発表。山岳以外にも朝日町の原風景や風物を数多く撮影した。合計3万枚以上の写真のほか、町の様子や山岳風景を記録した8ミリフィルムを多数残しており、貴重な文化的資料となっている。

◆DVD「あの素晴らしい日々をもう一度」

阿部氏が残したフィルムを約1時間にまとめたDVDを販売しています(税込1,500円)。貸出しもありますので、詳しくは下記までお問合せください。

▶問合せ先
NPO法人 朝日町エコミュージアム協会
☎0237-67-2128(月・木定休)



阿部幸作氏撮影・8ミリフィルムドキュメンタリー

「あの素晴らしい日々をもう一度」

この映像は、町内常盤で写真店を営みながら山岳写真家として活躍された、故・阿部幸作氏が長年撮影した8ミリフィルムを編集したものです。登場人物はすべて当時の朝日町民の皆さんで、その暮らしの様子や風物、イベント等の賑わいや、人々の情熱が映像から伝わってきます。

今回は、平成22年にNPO法人朝日町エコミュージアム協会20周年記念事業として編集されたものを再編集して上映。制作・編集を行った同協会の長岡信悦理事長を招き、当時の様子や出来事について解説をいただきました。

ス クリーンの中で、いきいきと躍動する当時の朝日町の人々。参加者も一緒に思い出話に花を咲かせ、会場には笑い声が響きました。最後に講評として「町を盛り上げようという心意気や、創意工夫して日々を楽しく生きようとする力を感じる素晴らしい映像」と語った長岡理事長。続けて「この情熱と精神は、今の私たちにも息づいているはず。これからも朝日町民であることに誇りを持って、生涯学習や地域活動に励んでいきましょう」とまとめました。

NPO法人 朝日町エコミュージアム協会 長岡 信悦 理事長(常盤)



寄付採納報告



東北電力(株)と(株)ユアテックによるLED街路灯の寄贈式(3月9日)

LED街路灯 5灯

明るく住みよいまちづくりの一助として
東北電力株式会社 天童営業所
株式会社ユアテック 寒河江営業所 より

手縫いぞうきん 40枚

町環境美化のため
朝日町長寿クラブ連合会様 より

小林達院長に「地域医療貢献奨励賞」

朝日町立病院 ☎67-2125



都市センターホテルで行われた表彰式の様子

2月24日、都市センターホテル(東京都)で、(一財)住友生命福祉文化財団が主催する「第11回地域医療貢献

賞奨励賞」表彰式が行われ、朝日町立病院の小林達院長が表彰を受けました。永年にわたり地域における医療の確保と向上、住民の健康福祉の増進等に貢献した医師を対象とするもので、今回は全国で6人が受賞。小林院長は平成3年より町立病院に勤務し、町における地域包括ケア拠点として、予防・治療・在宅ケアまで、一貫した医療サービスの提供に積極的に取り組んできた功績などが大きく評価されたものです。

朝日町ふるさと納税いただいた寄付金をまちづくり事業へ活用しています

政策推進課 ブランド推進係 ☎67-2112

平成29年度まで

- ①空気澄むふるさとづくり事業
- ②日本一のりんごの里づくり事業
- ③みんな温か交流・観光事業
- ④支えあう集落元気事業
- ⑤みんな達者でにこにこ元気事業
- ⑥たくましい朝日っ子育成事業
- ⑦町長におまかせ事業

平成30年度より

- ①自然と共生する安心な暮らし事業
- ②りんごとワインの里の産業・観光事業
- ③つながりを大切に地域づくり事業
- ④思いやりあふれる健康な暮らし事業
- ⑤ふるさとを愛し学び合う教育事業
- ⑥町長におまかせ事業

※「朝日町日本一りんごのふるさとづくり寄付条例」より抜粋

町では、昨年度寄せられたふるさと納税寄付(1億530万円)を財源として、寄付者が選択した7つの使い道(左欄上)に沿ったまちづくり事業へ活用しています。そこで、今年度取り組んできた主な事業について、次のとおり報告します。

①「放課後児童クラブ」建築費の一部と、同施設内で子どもたちが使用する備品購入費(2000万円)

②特に若者向け住まいの慢性的な不足を解消する目的の「民間賃貸住宅建設補助」(2000万円)

③高品質のりんごづくりを維持するため、改植や効率的な栽培方法に対する支援(280万円)

④町に残る歴史深い建造物や伝統文化等を守る、建物および資源の保全費(222万円)

⑤地域独自のイベント等を通して活性化に取り組み、地域づくりへの支援(200万円)

このほか、ふるさと納税寄付は様々な町の事業に活用されています。今年度も2月28日現在で既に8600万円を超える寄付をいただいております。その使い道についてより幅広い分野で活用ができるよう条例の見直しを行いました(左欄下/町議会3月定例会で議決)。

平成30年度から始まる第6次町総合発展計画に合わせて、今後もいただいた貴重な寄付金を有効に活用していきます。

第6次朝日町総合発展計画が策定されました

政策推進課 総合戦略係 ☎67-2112



▲まとめた最終案に対するの答申を提出する朝日町振興対策審議会の安藤實会長(2月27日)

◀同計画をまとめた冊子(現在編集中)

平成30年度より10年間のまちづくりの指針を定める「第6次朝日町総合発展計画」。その計画案が3月8日、町議会3月定例会で上程、議決されました。

町では今年度、同計画に広く町民の意見を取り入れるため、昨年3月から8月にかけて6回にわたる「町民ワークショップ」を開催。そこで出た意見をもとに「基本構想(目標とする町の将来像)」や「基本計画(具

体的活動や数値目標)を協議する同計画策定委員会を3回実施しました。その後計画案を朝日町振興対策審議会に提出。意見を諮り、最終案としてまとめました。

策定された同計画は、今後冊子として編集し、4月中旬以降に町民の皆さんに向けて全戸配布される予定です。ぜひご覧ください。

また、詳しい内容等について、当該5月号で特集する予定です。

大谷小学校6年生 総合的な学習内で取り組んだ町のPR活動
「りんご剪定木を活用したキーホルダー」売り上げ金の一部を寄付



▲▲寄付金とともに「キーホルダー」と、手づくりの町PRパンフレットを贈呈する児童たち(2月14日)。パンフレットは全員が1ページずつ担当し、町の名物を紹介している力作

2月14日、大谷小学校の6年生が、まちづくり寄付金として1万2000円を寄付しました。

4月から取り組んできた総合的な学習の時間内で、昨年12月に町特産のりんご剪定木を使って作成・販売した「キーホルダー」の売り上げの一部。町の観光地や特産品について調べていた子どもたちが普段は捨てられてしまっているりんご剪定木の活用を思いつき、町の情報発信を兼ねて道の駅あさひまちで販売したもので、

当日学校訪問に訪れた鈴木町長へ「町のPRのために活用してほしい」と寄付金を手渡した児童たち。キーホルダーと合わせて作成・配布した町の自慢を紹介するパンフレットとともに贈呈し、学習の成果を報告しました。

寄付を受けて「すばらしい学習発表に感動した。寄付金は必ず有効に使わせていただきます」と鈴木町長。この度贈呈されたパンフレットは、道の駅あさひまちでも配布していますので、ぜひご覧ください。

■ 朝日町体育協会表彰 功労賞

氏名	地区	主な功績
宮本 千代子	西船渡	朝日町卓球協会において40年以上の長きにわたり指導者及び役員として活躍し、町のスポーツ振興に大きく貢献した。

■ 朝日町子どもの芸術文化活動表彰

氏名	職業(学校)	地区	主な成績
鈴木英里奈	寒河江高2年	雪谷	第65回県高等学校美術展及び第41回県高等学校総合文化祭県高校美術展賞・総合文化祭賞
太田 迪喜	朝日中3年	緑町	第20回内藤秀因記念水彩画公募展 東北芸術工科大学賞
川村さつき	朝日中3年	大谷三	第20回内藤秀因記念水彩画公募展 優秀賞
佐藤 祐里	朝日中3年	新宿	土砂災害防止に関するポスターコンクール 優秀賞
鈴木 満衣	朝日中3年	松程	土砂災害防止に関するポスターコンクール 優秀賞
長岡 結衣	朝日中3年	大谷五	2017産経ジュニア書道コンクール【中学生以下A部門】 ジュニア賞
阿部 愛実	朝日中3年	夏草	全日本学生書道コンクール 秀作賞
堀 如水	朝日中3年	大谷七	全日本学生書道コンクール 秀作賞
志藤 百音	朝日中3年	大谷三	全日本学生書道コンクール 秀作賞
関根 咲	朝日中2年	新宿	第33回山形県児童生徒版画展覧会 特選
岡崎 優佳	朝日中2年	大町	第33回山形県児童生徒版画展覧会 奨励賞 第20回内藤秀因記念水彩画公募展 優秀賞
阿部 令	朝日中2年	栄町	第20回内藤秀因記念水彩画公募展 優良賞
山賀 季華	朝日中1年	沼向	第59回山形県子ども絵画展覧会 奨励賞
阿部菜々子	朝日中1年	緑町	第20回内藤秀因記念水彩画公募展 優秀賞
渡辺 日花	朝日中1年	能中	土砂災害防止に関するポスターコンクール 優秀賞
若月 怜音	朝日中1年	西船渡	第20回内藤秀因記念水彩画公募展 優良賞
堀 栞汰	朝日中1年	中沢	全日本学生書道コンクール 秀作賞
長岡 丈裕	西五百川小5年	常盤	全日本学生書道コンクール 秀作賞
小松莉々姫	西五百川小2年	八ツ沼	山形県児童生徒版画作品展 特選
小川紗弥花	西五百川小1年	太郎一	財団法人きらやか銀行教育福祉振興基金山形くらしの文集 県総合版特選
阿部 奏翔	宮宿小6年	大町	山形県児童生徒版画作品展 特選 山形県造形教育連盟会長賞
成原 結愛	宮宿小5年	新宿	全日本学生書道コンクール 秀作賞
西澤 峻	宮宿小4年	西原	川をきれいにする児童図画・ポスターコンテスト 銅賞
白田 華里	大谷小6年	大谷二	第20回内藤秀因記念水彩画公募展 内藤秀因記念大賞
鈴木 玄助	大谷小6年	大谷三	川をきれいにする児童図画・ポスターコンテスト 銅賞
堀 光姫	大谷小5年	中沢	第42回県木工工作コンクール 優秀賞
佐藤 桃子	大谷小3年	大暮山	2016産経ジュニア書道コンクール【小学3年生以下A部門】 いきいき賞
朝日中学校 第1学年			山形県郷土愛を育む活動推進事業「郷土 Yamagata ふるさと探究コンテスト」ふるさと探究大賞

平成29年度 町体育協会表彰および子どもの芸術文化活動に係る町教育委員会表彰

■教育文化課 ☎67-2118

■ 朝日町体育協会表彰 殊勲賞

氏名	職業(学校)	地区	主な成績
清野 嵩悠	(株)置環	四ノ沢	第73回国民体育大会冬季大会スキー競技会山形県予選会 男子大回転 成年男子A 第1位
鈴木 陽子	朝日中学校教諭	大谷七	第9回全日本都道府県対抗女子剣道優勝大会山形県予選会 大将の部 第1位
白田 瑠璃	陵南中学校講師	大谷六	第9回全日本都道府県対抗女子剣道優勝大会山形県予選会 中堅の部 第1位
清野志津佳	農業	元町	第65回山形県剣道大会 女子団体 第1位
五十嵐大義	信州大4年	中沢	第49回全日本大学駅伝対校選手権大会北信越予選会 予選会10,000mタイムレース 第2位
志藤 康平	秋田南高3年	川通	第61回東北高等学校総合体育大会 剣道競技 男子団体 第2位
布施 秀次	山本学園高3年	栄町	第72回国民体育大会 兼 第44回東北総合体育大会山形県予選会 剣道競技 少年男子団体 第1位
佐藤 耕雄	山形工業高3年	大滝	平成29年度山形県高等学校総合体育大会 剣道競技 男子団体 第1位
村山 朝師	村山産業高3年	助ノ巻	平成29年度全国高等学校総合体育大会 登山競技 団体男子 第3位
川村優貴乃	山形商業高2年	大谷五	第44回東北総合体育大会 剣道競技 少年女子団体 第2位
阿部 雪奈	山形学院高2年	常盤	平成29年度山形県高等学校総合体育大会 卓球競技 女子学校対抗 第2位
佐竹 結衣	東海大山形高2年	宇津野	第29回山形県高等学校駅伝競走大会 兼 平成29年度全国高等学校駅伝競走大会山形県予選会 陸上競技 女子駅伝 第1位
佐藤和夏子	山辺高1年	宿	第40回全国高等学校柔道選手権東北地区大会 柔道競技 女子個人52kg級 第3位
朽木 叶	山形中央高1年	西町	第58回山形県高等学校新人柔道大会 柔道競技 女子個人48kg級 第2位
齋藤 とも	朝日中3年	大町	第41回東北中学校剣道大会 剣道競技 女子個人 第1位
小野 舞夢	朝日中3年	大谷五	第41回東北中学校剣道大会 剣道競技 女子個人 第3位
遠藤 大空	朝日中1年	真中	平成29年度山形県中学生新人テニス選手権大会 男子シングルス 第1位
朝日中剣道部 【渡辺りりか 小野舞夢 堀美宙 佐藤百恵 齋藤とも 清野凜華 堀雪菜】			第57回山形県中学校総合体育大会 剣道競技 女子団体 第1位

■ 朝日町体育協会表彰 優秀賞

氏名	職業(学校)	地区	主な成績
佐竹 萌	西五百川小6年	常盤	東北ブロック少年柔道形競技会 柔道形競技 第2位
若月 保歩	西五百川小6年	西船渡	東北ブロック少年柔道形競技会 柔道形競技 第2位
志藤 大地	大谷小6年	栗木沢	第33回山形県小学生陸上競技大会 兼 第33回全国小学生陸上競技交流大会 山形県予選会 小学男子6年 100m 第2位
朝日町柔道スポーツ少年団 【佐竹 萌 若月保歩 海野結菜 菊地 舞】			第25回山形県民スポーツフェスティバル 山形県少年少女スポーツ交流大会 柔道競技 女子団体 第2位
朝日卓球スポーツ少年団 【松尾神那 佐竹来夢 渡辺咲花 野村史佳 阿部 南海】			第25回山形県民スポーツフェスティバル山形県少年少女スポーツ交流大会 卓球競技 少女の部Dブロック 第2位

※町体育協会表彰規定「殊勲賞」「優秀賞」について【殊勲賞】①県大会で優勝、準優勝もしくは新記録を樹立した者 ②東北・全国大会で入賞もしくは新記録を樹立した者 ③日本代表として国際競技会に出場した者【優秀賞】①殊勲賞に該当しない大会において優勝、準優勝した者 ②児童について東北、全国競技大会において入賞した者、および県競技会において優勝、準優勝した者、もしくは新記録を樹立した者

平成30年
4月から

朝日町コミュニティ・スクールが 町内小・中学校で始まります。

▶問合せ先
朝日町教育委員会
☎67-3302

コミュニティ・スクールとは、より良い学校運営のために、家庭・地域・学校が一体となって子どもたちを育てていく仕組みのことです。今回は、町の今後の構想について、小林道和 教育長よりお話を伺いました。

コミュニティ・スクールの定義とは

保護者や地域住民、教職員などで組織する「学校運営協議会」を設置している学校を指します。同協議会は、各学校の運営方針や目標などについて情報共有し、運営や課題などについて協議します。また、魅力ある学校づくりを共に考え、地域との協働をより一層推進する役割を担います。

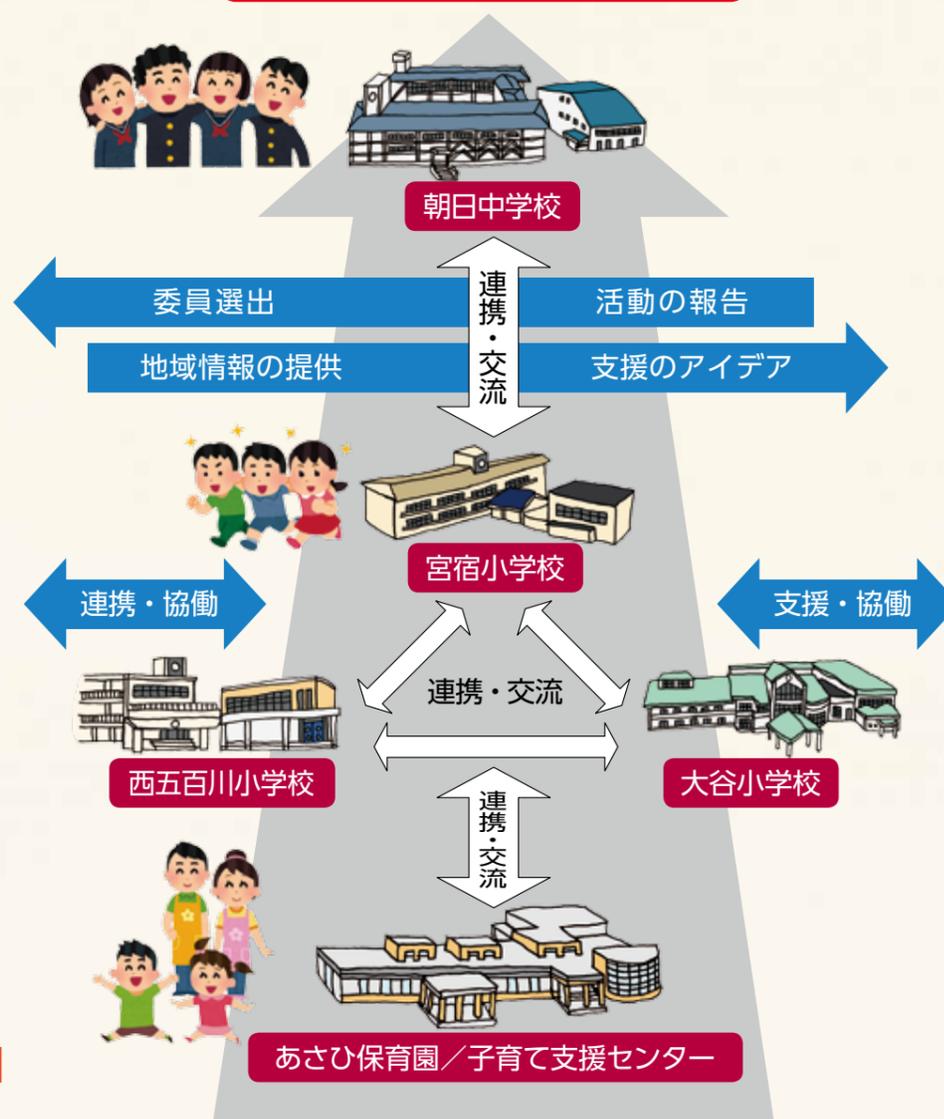
何のために行うのか

子どもたちを取り巻く環境は日々目まぐるしく変化しています。そんな時代の中で「たくましく生きる力」を育むには、勉学のみならず、多くの体験活動や経験の場が必要です。しかし、少子高齢化が進み、教職員数も減少している今、学校だけではそれらの提供は難しい。だから地域の皆さんの参画が必要なのです。

朝日町ならではの構想は

上の図を見てください。「学校運

保小中連携・一貫教育



地域学校協働活動

地域の協力で、子どもたちの学びを充実させます。その取り組みは、地域の皆さんの生きがいくりにもつながっていきます。



学校運営協議会

学校運営や課題について、学校と保護者や地域住民が力を合わせ、共に考えることにより、地域に根ざした魅力ある学校にしていきます。



家庭・地域・学校が一体となり、あさひっ子の成長を支え

る朝日町コミュニティ・スクール構想

一般市民の役割は

皆さまにおかれましては、いつも通り自分の得意なことや、「これならできる」という地域活動に積極的に参加していただきたいと思います。今後は様々な活動の場で、子どもたちと接する機会が増えていくはずですので、その際にはぜひ、あなたの経験と力をお貸しください。

コミュニティ・スクールの活動

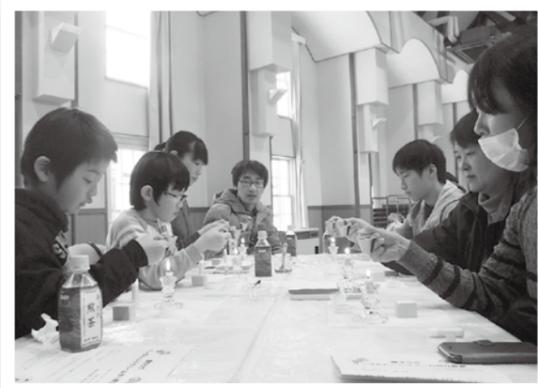
を通して、子どもたちと地域との絆はもちろん、地域との大人同士のつながりが、更に深まることを期待しています。

◀小林 道和 朝日町教育長



2/10 西部公民館事業 いもがわ少年教室
牛乳パックで「ペンたて」づくり

西部地区の児童を対象とする「いもがわ少年教室」の「牛乳パックでペンたてをつくろう」が2月10日、西部公民館で行われ、8人が参加しました。先生は、身近な材料で様々な小物をつくる名人の安藤美智子さん（松原）。今回は使い終わった牛乳パックに好きな布をきれいに貼り付け、オリジナルのペンたてを作りました。参加者は「こんな風にきれいにリサイクルできることにビックリ」「かわいくできて嬉しい」と出来栄えに大満足の様子でした。



2/17 北部地区子ども会育成協議会事業
蜜ろうでリップ&ハンドクリームづくり

2月17日、秋葉山交遊館で北部地区子ども会「蜜ろうでリップ&ハンドクリームづくり教室」が行われ、34人が参加しました。講師は蜜ろうの専門家であるハチミツの森キャンドルの安藤竜二さん（大谷）。参加者はまずミツバチと町の豊かな自然の恵みについてスライドで学習し、トチ・アカシアなど4種類のハチミツを食べ比べてその違いを体験。その後上質な蜜ろうとオリーブオイルなどを材料に、自然素材100%の体に優しいリップ&ハンドクリームを作りました。



3/4 今だけ見られる絶景に歓喜
春の雪山トレッキング

Asahi 自然観周辺の雪原を散策する「春の雪山トレッキング」が3月4日に開催され、11人が参加しました。自然観のエアートップゲレンデ頂上から名物の大雪庇を通り、朝日連峰の大パノラマが広がる目的地「サイツチ峰」を目指すコース。例年より雪は多いものの天候に恵まれ、目的地には約2時間で到着しました。参加者は目の前に広がる大パノラマの絶景に歓声を上げながら、熱心に写真に収めていました。



3/4 自分で打った本格そばに舌鼓
ナチュラルリストクラブ「そば打ち体験」

3月4日、朝日ナチュラルリストクラブが主催する「そば打ち体験」が秋葉山交遊館で行われ、16人が参加しました。指導者は朝日鉱泉ナチュラルリストの家で手打ちそばを提供するそば打ち職人、西澤新地さん（西原）。分量の計量から伸ばして切る工程まで、しっかり自分の手で作り上げ、打ちたてのそばを味わいました。自然観察活動などを通して、子どもたちに町の自然や文化について興味を深めてもらおうと町民有志で運営されている同クラブ。来年度の会員募集は4月始めのお知らせ板に掲載予定です。



2/11 野球の楽しさを仲間とともに
朝日サンフラワーズ創立30周年記念式典

2月11日、町野球スポーツ少年団「朝日サンフラワーズ」の創立30周年を祝う式典が秋葉山交遊館で行われ、団員とOB、その家族など約100人が参加しました。保護者会などで組織する同記念事業実行委員会が主催。同少年団の今年度の団員は28人で、昭和62年に石塚悦雄氏（相談役・初代監督／四ノ沢）、清野文一氏（現部長／四ノ沢）、鈴木俊一氏（現コーチ／大町）により結成されて以来、「あいさつ」「元気」「思いやり」を大切に、野球の楽しさを伝える活動を行ってきました。各種大会でも多くの入賞歴を誇り、近年ではティーボール（※）県代表として全国大会に出場するなど大きく活躍しています。式典では歴代指導者へ感謝状が贈られたほか、全員で団歌を合唱。最後に現団員一人ひとりによる決意表明が行われ、一層の団結を深めました。また、30周年を記念する記念誌がまとめられ、式典参加者全員に贈呈されました。



▲現団員のほか、参加者全員で団歌を合唱

◀思い出の品や写真などが所せましと飾られたロビー

▼仲間と一緒に「はいチーズ！」



（※）野球と同様に塁を置くが、投手は置かず棒状の台に置いたボールを打って攻守を競う競技。チームは1～4年生で結成。



3/3 みんなで子どもたちの生活習慣を考える
朝日町子育て・家庭教育講演会

3月3日、朝日町子育て・家庭教育講演会「みんなであさひっ子の生活習慣を考えよう！」が創遊館で行われ、教育関係者や小中学生の子どもを持つ保護者など約70人が参加しました。

「平成29年度全国学力・学習状況調査」の結果によると、町の小学生の朝食喫食率は93.5%で全国平均の95.4%より低く、テレビやゲーム、スマートフォン等の利用時間がすべて全国平均より高いという驚くべき結果が出ています。これを受けて「生活習慣」が子どもたちの学力や体力に与える影響について、医学博士であり静岡産業大学副学長の小澤治夫氏が講演。統計データに基づき、「なぜ朝食が重要なのか」「テレビやゲームが子どもの体力形成に与える影響は」などについて分かりやすく解説し、現状に警鐘を鳴らしました。最後に「子どもはもちろん、手本となる大人の生活習慣や自己管理も大切」と説いた小澤氏。参加者は深く頷きながら熱心に耳を傾けていました。



▲ステージを下り、参加者に向けて熱弁をふるう小澤氏



町地域おこし協力隊と桃色ウサビの「中の人」こと、佐藤恒平まちづくり総合アドバイザーによる連載コーナー。日々の活動や朝日町での暮らしを語ります。

「ゲストハウス松本亭一農舎」(常盤)で管理・運営等の業務に携わって一年。この度協力隊員の活動期間を終え、3月末に四国・愛媛に居を移すことになりました。そこで、お世話になった皆さんとの思い出と共に、この一年で実施した催しを振り返りたいと思います。

上半期には、「あさひ里山生活体験会」(3月)、「DIY体験隠し扉を作ろう」(5月)などの体験教室、「いもがわ少年教室流しそうめんとボードゲーム大会」(6月)など、地域の子どもたちとの活動もありました。夏休みの時期には「最上川



地域の皆さんに温かい応援の言葉をいただきました

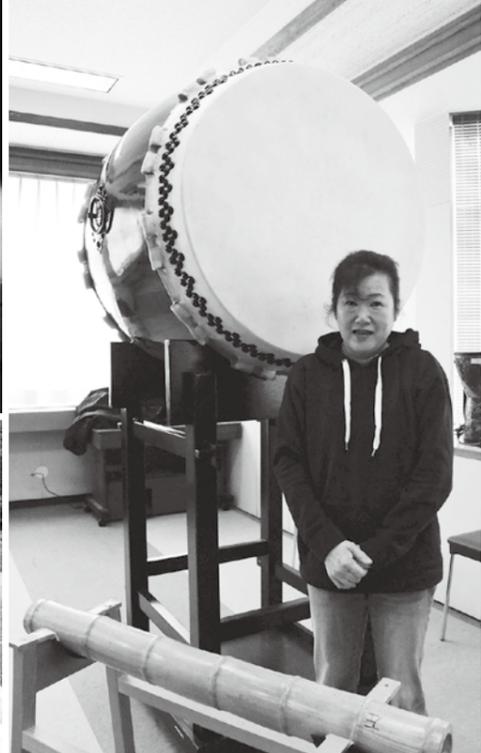
「松本亭一農舎の1年間」

移住・交流推進員(地域おこし協力隊) 水沼祥乃よし乃(香川県出身)

の水辺で乾杯「ミニ四駆を作って遊ぼう」(7月)などの楽しいイベント、秋は「あなたの知らないアイドルの世界」(9月)、「美術展 銘木七」(10月)などの文化系イベント、冬は「映画の名シーンを語ろう」(12月)、「新春ボードゲーム大会」(1月)などで、地域の方や宿泊者同士で大いに盛り上がりました。これらイベントの開催予定は、ホームページ(松本亭一農舎と検索)で随時お知らせしていますので、これからもぜひチェックしてみてください。

また、施設としては、快適で楽しいひと時を過ごしていただけるよう、湿気が傷んだ客室の改装や、雪除け用の軒の延伸など、古民家特有の課題も少しずつ解決しています。訪れた際には、ぜひご覧になってみてください。

最初に朝日町を訪ねてから3年。それからの日々どれもが心に残り、私にとっては第二の故郷のようです。また四季折々の風景を見に、そして町の皆さんに会いに来ます。ありがとうございました。



大太鼓の前で笑顔の清野さん(旧送橋小学校音楽室)

地域を元気に！仲間と響かせる太鼓の音色



「送橋神明こぶし太鼓」清野むつみしんめいさん(送橋)

「セイヤッ！」と響く威勢の良いかけ声に、重厚な太鼓の音色。町の様々なイベントや文化発表会などで、目を奪われた方も多いのではないでしょうか。

今年で結成13年目、今や町内外から出演依頼が殺到する「送橋神明こぶし太鼓」の清野むつみ代表に、活動を始めたきっかけや日々の練習、地域や仲間との絆についてお話を伺いました。

「立派な太鼓が残っていたし、ここで無くしてしまうのは勿体ない。子どもたちができないなら、私たち大人がやろうと決心したのが始まりです」

結成時の思いについてこう話す清野さん。平成15年3月、送橋小学校が宮宿小学校に統合され廃校。同時に、区の行事を盛り上げてくれていた子どもたちの太鼓の歴史も途切れてしまうのが寂しかったと言います。

「とにかく送橋を元気にしたくて、当時の婦人会員を中心に立ち上がりました。メンバーは15人ほどで、使える太鼓も一張のみ。足りない分は床を叩いて練習しましたね」

団体名の由来は、送橋区の鎮守「神明神社」と、そこから見えた「こぶし」の花から。最初の楽曲であり、団体名と同じ「送橋神明こぶし太鼓」は、送橋小の創立120周年記念式典で披露された子どもたちの太鼓のビデオを見ながら、できるだけそれに近づけようと試行錯誤して作り上げました。

「今も曲の作り方は一緒。こうした、ああしたいって、メンバーと意見を出し合います。有名な太鼓の舞台を見に行くと刺激を受けたり、実際にやってみて修正したり、1曲作るのに大体3年くらいかかります」

区や町のイベントから福祉施設等での演奏会など、活動を続ける内に参加者の口コミなどで知名度が上昇。その評判から、今や町内外まで活躍の幅を広げています。

「忙しい中参加してくれるメンバーと、地域の皆さんの応援があってこそです。ここ(練習場)にある太鼓も、区の皆さんの寄付や町の補助金で新しいものを買って足すことができました。持ち曲も4曲に増え、来年の芸

文祭に向けて新曲も練習中です」と清野さん。今後も太鼓の楽しさ、素晴らしさを町の皆さんに伝えていきたいと笑顔で語ってくれました。

「舞台上立つと自信がつくし、何より太鼓を叩くのは気持ちが良い。ずっと続けていきたいけど、メンバーの年齢層も上がってきています。この楽しさを私たちの代で終わらせないためにも、次の世代へ。まずは一度練習を見に来てもらえたら嬉しいです」

◆新メンバー大募集！

年齢・性別不問、初心者も丁寧に教えます。まずは気軽にお問合せください。

▶練習日(初心者向け)
毎週 金曜日 午後7時～8時

▶場所
旧送橋小学校2階 音楽室

▶問合せ先
清野むつみ ☎090-5596-1060
清野茂美 ☎090-7663-4827

町立図書館新刊案内

「藤沢周平遺された手帳」 遠藤 厚子 著



娘の誕生 伴侶の死…。そこらに「藤沢周平」となったのか。没後20年、遺された手帳から、直木賞作家となるまでの苦闘の足跡を愛娘が読み解く。

「ミントン」 小川糸 文/平澤まりこ 画



波乱に満ちながらも、慎ましく温かい生涯を送ったマリカのそばには、いつも美しいミントンがあった。小説と版画が紡ぎだす愛しい物語。作品のモデルとなった国ラトビアを旅するイラストエッセイも収録。「MOE」連載等に加筆。著者は山形市出身。



【ブックテマコーナー】
今年もやってきた!!
「本屋大賞」ノミネート作品を読んでみよう!

戸籍のまど

Asahi town

2月1日～2月28日届出

Births

すこやかに

区名	出生児氏名	性別	保護者名
本町	布施博都	男	正徳・裕美
栗木沢	岡崎蓮	男	能行・那奈
八ツ沼	佐竹優苗	女	祥一・有加里
四ノ沢	阿部優志郎	男	健・万利子

Marriages

おしあわせに

小松 弘嗣 (大町)	鈴木 真里子 (本町)
佐藤 満 (南陽市)	阿部 愛美 (常盤)

Obituaries

やすらかに

区名	死亡者氏名	世帯主名
大谷一	白田 雄一	英 樹
大町	長岡 かつよ	芳 博
西船渡	若月 慶一	俊 行
常盤	長岡 藤江	忠 志
大谷二	白田 千代治	隆 夫
大沼	小林 よし子	本 人
西船渡	小関 孝子	本 人
西町	鈴木 ふみゑ	郁 男
西町	加藤 泰い	敏 弘
西船渡	鈴木 昭壽	照 子
西船渡	鈴木 タミエ	照 子

Population

人口と世帯数

●平成30年2月28日 現在
※()内は先月比

人口	7,058 人 (-14)
男	3,486 人 (-7)
女	3,572 人 (-7)
世帯数	2,455 世帯 (-5)

----- 1月中の異動 -----

出生	5人	転入	8人
死亡	14人	転出	13人

(※外国人を含む)

お詫びと訂正

本誌の先月号(2018年2月号)記事内に下記のとおり誤りがありました。お詫びして訂正いたします。

▶18頁「各種スポーツ大会の入賞結果」:「町民柔道大会 敢闘賞」(誤) 渡辺優(4年/大谷二) → (正) 渡辺優(5年/大谷二)

とないのリンゴさん

(300)

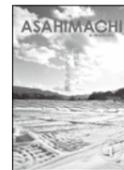
ホリイ



広報誌でふるさとのおくもりを

町外在住者の広報誌定期購読を受け付けています。

「町外に住んでいるけど、朝日町の情報が欲しい…」町では広報誌の定期購読制度を設け、こうした声にお応えしています。遠方にお住いのご家族や親類の方々にぜひご紹介ください。



▶料金 年間1,680円(1ヵ月あたり140円)

▶申込み方法

下記へ電話、メール等でお申込みください。後日郵便払込取扱票をお送りします。

▶申込み先 政策推進課 ☎0237-67-2112
E-mail inform@town.asahi.yamagata.jp



夜型人間になっていませんか? 「朝の光」で、体内時計をリセットしましょう

【平成29年度第11回】

今月の担当…木村 朋恵 地域包括支援センター係長



春の陽ざしが心地よい季節となりました。ただ、昼夜の寒暖差もあるため、体調管理には十分に気を付けたいものです。

さて、今回は「体内時計」についてのお話です。私たちの体は、約24時間周期の中で、睡眠や体温、ホルモン分泌などを調整していると言われています。

しかし、普段の生活の中で、様々な要因からそのリズムが乱れてしまうことがあります。例えば、テレビやスマートフォンなどを長時間(特に夜間)使用していると、画面の光刺激が体内時計を「夜型」にしやすくなると言われています。



また、私たちの体は日中活動のためにエネルギーを消費しやすく、夜はエネルギーを貯めやすくできています。そのため遅くに食事を摂ったりすると、肥満や糖尿病のリスクが高まります。

このように「生活が夜型になっていくかも」と思ったなら、朝の生活を少し工夫してみてください。乱れてしまった体内時計をリセットするには「朝の光」を浴びると良いと言われています。また、「朝食」をしっかり食べることで体温が上昇し、体や脳も元気に動き出します。

▼問合せ先
健康福祉課
地域包括支援センター係
☎67-2156

町全体が博物館! 朝日町エコミュージアム サテライト散策

第9回 伊豆権現の種まき桜

【DATA】役場前交差点の北側(宮宿栄町)、伊豆権現の境内にある。4月下旬に花が咲く頃には、見やすいベンチも設置される。

樹高約9m、枝張約5m、幹回り約3.5mのエドヒガン桜。長寿の桜として知られる品種で、この木も樹齢は700年以上と推定されています。

江戸(東京)では彼岸の頃に花が咲くエドヒガンですが、朝日町では4月下旬頃に花が咲きます。昔はこの花が咲くと稲の種まきをしたことから、「種まき桜」と呼ばれるようになりました。

現在も栄町区民の手により大切に守られており、平成26年には「朝日町ふるさと文化財」として登録されています。



【おすすめの季節】花が咲く4月下旬頃。日中はもちろん、美しくライトアップされる夜もおすすめ。

「朝日町ふるさと文化財」とは、町内で地域の宝として親しまれ、大切にされている歴史的・文化的に価値のある財産のこと。その保全および活用、後世へ継承することを目的に、平成25年4月に制定されたものなんだ。

国や県・町指定の文化財に準じる文化的財産として教育委員会が登録する制度で、種まき桜がその第1号なんだって。

案内人のつぶやき



昔ながらの手仕事で丁寧^{ほうりゅう}に仕込む酒 町の地酒「豊龍」蔵を訪ねる



6



1

朝日町エコミュージアム
案内人の会が主催する「朝日町ふるさとミニ紀行 豊龍蔵を訪ねる」が2月18日に行われ、町内外から21人が参加しました。

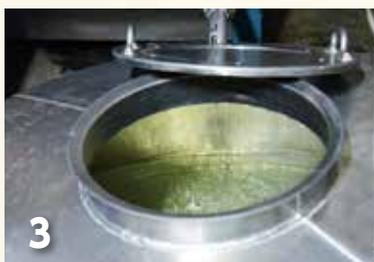
町唯一の酒蔵で、地酒「豊龍」を始めとする日本酒を醸造する鈴木酒造（鈴木和香子社長／大町）。今の酒造は機械制御による管理が一般的ですが、昔ながらの手仕事を大切に、丁寧な酒造りを行っています。

当日は酒造の工程を収録した映像で予習した後、酒蔵を訪ね、使う道具や材料、酒造りへのこだわりなどを杜氏の成原健太さん（采町）にお話しいただきながら、興味深く歩きました。

ツアーの最後には、搾りたての生酒や甘酒の試飲、利き酒ゲームなどを実施。数種類の飲み比べを楽しみ、ほろ酔い気分を後へにしました。



2



3



4



5

1. 米を蒸す湯気が、歴史ある酒蔵に立ち上る 2. 試飲を楽しむ参加者 3. タンクに落ちる搾りたての生酒 4. 参加者の質問に答える鈴木和香子社長（左） 5. 新酒ができたことを知らせる「杉玉」。鮮やかな緑が茶色に変わる頃が「冷やおろし」の季節 6. お馴染み、朝日町の地酒「豊龍」

春夏秋冬 編集後記

1人ひとりが楽しく生きる
「まちおこし」

故・阿部幸作氏が長年かけて撮影した昔懐かしい映像とともに、町生涯学習推進大会を特集しました。ページの都合で概要のみのご紹介しかできなかったのですが、特に昭和49年の朝日町誕生20周年記念パレードの様子は圧巻です。掲載している花笠隊は当時の婦人会の皆さんによるものですが、その参加者は250名を数え、見物人を含めて宮宿商店街全体が埋まるほどの賑わい。同時開催の仮装パレードも町内各団

体16チームが参加し、約4時間をかけて町全域を練り歩いたそうです。当時の広報誌（同年11月号）には、「この美しいふれあいの輪をさらに大きくして、町の発展をはかりたいものです」とまとめられていました。個々の楽しみをつなげていくと、そこに人と人とのふれあいが生まれ、町全体が活気付く。次年度から始まる第6次町総合発展計画の基本目標とリンクする朝日町民のチャレンジ精神を感じました。

村山 彩